

日本国特許  
JAPAN PATENT OFFICE

専 / Priority  
Doc.  
E. uswillis  
11-27-01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office

出願年月日  
Date of Application:

2000年10月12日

J1050 U.S. PRO  
09/973808  
10/11/01



出願番号  
Application Number:

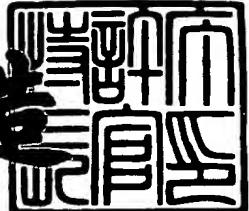
特願2000-312471

出願人  
Applicant(s):

パイオニア株式会社  
東北パイオニア株式会社

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕造



2001年 8月24日

出証番号 出証特2001-3076452

【書類名】 特許願  
【整理番号】 55P0007  
【提出日】 平成12年10月12日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 H04R 9/02  
【発明の名称】 スピーカ用ダンパーならびにその製造方法  
【請求項の数】 7  
【発明者】  
【住所又は居所】 山形県天童市大字久野本日光1105番地 東北パイオニア株式会社内  
【氏名】 富山 博之  
【発明者】  
【住所又は居所】 山形県天童市大字久野本日光1105番地 東北パイオニア株式会社内  
【氏名】 佐藤 政敏  
【発明者】  
【住所又は居所】 山形県天童市大字久野本日光1105番地 東北パイオニア株式会社内  
【氏名】 八矢 聰  
【特許出願人】  
【識別番号】 000005016  
【氏名又は名称】 パイオニア株式会社  
【特許出願人】  
【識別番号】 000221926  
【氏名又は名称】 東北パイオニア株式会社  
【代理人】  
【識別番号】 100060690  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 潤野 秀雄

【電話番号】 03-5421-2331

【選任した代理人】

【識別番号】 100097858

【弁理士】

【氏名又は名称】 越智 浩史

【電話番号】 03-5421-2331

【選任した代理人】

【識別番号】 100108017

【弁理士】

【氏名又は名称】 松村 貞男

【電話番号】 03-5421-2331

【選任した代理人】

【識別番号】 100075421

【弁理士】

【氏名又は名称】 堀内 勇

【電話番号】 03-5421-2331

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012450

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0008650

【包括委任状番号】 0008882

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 スピーカ用ダンパーならびにその製造方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーと、前記補助ダンパー上にラミネートされたフィルムと、前記補助ダンパーあるいはラミネートフィルム上に形成した主ダンパーとを備えたことを特徴とするスピーカ用ダンパー。

【請求項2】 フェノール系樹脂を含浸し、かつ、コート剤を塗布した補助ダンパーと、

前記補助ダンパー上あるいは前記コート剤上に形成した主ダンパーとを備えたことを特徴とするスピーカ用ダンパー。

【請求項3】 フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーにフィルムをラミネートする工程と、

前記補助ダンパー上あるいは前記ラミネートされたフィルム上に主ダンパーを接着する工程とを備えたことを特徴とするスピーカ用ダンパーの製造方法。

【請求項4】 前記ラミネート工程の後に前記補助ダンパーの外周部を所定形状に切断する工程を更に備えたことを特徴とする請求項3に記載のスピーカ用ダンパーの製造方法。

【請求項5】 前記ラミネートされたフィルムの厚さを変えることにより、前記補助ダンパー上あるいは前記ラミネートされたフィルム上に主ダンパーを接着することを特徴とする請求項3に記載のスピーカ用ダンパーの製造方法。

【請求項6】 フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーにコート剤を塗布する工程と、

前記コート剤が塗布された補助ダンパー上に主ダンパーを接着する工程とを備えたことを特徴とするスピーカ用ダンパーの製造方法。

【請求項7】 前記コート剤の厚さを変えることにより、前記補助ダンパーに主ダンパーを接着することを特徴とする請求項6に記載のスピーカ用ダンパーの製造方法。

【発明の詳細な説明】

## 【0001】

## 【発明の属する技術分野】

本発明は、ネック部を二枚のダンパーで成形したスピーカ用ダンパーならびにその製造方法に関する。

## 【0002】

## 【従来の技術】

図4に一般的なスピーカの構成ならびにダンパー構造が示されている。振動系33を支持するダンパー構造は、一般的に、ダンパー34の同心円上に多数のコルゲーション35が形成されて成る。図中、31はスピーカ全体を示し、32は磁気回路、36はヨーク、37はセンターポール、38はマグネット、39はトッププレート、40はフレーム、41は振動板、42はコイルボビン、43はボイスコイルである。

## 【0003】

通常、ダンパー34の成形は、ダンパー34の原反にフェノール樹脂を含浸し、加熱プレスによりフェノール樹脂を固まらせ、ダンパー形状を出すといった手法を採用している。

しかしながら、このような手法で製作したダンパーは、サブウーファー等ハイパワーが供給されたときに、ボイスコイル43とダンパー34の接着部分の生地が切れてしまう、いわゆるネック切れという現象が起きている。

## 【0004】

最近、このようなネック切れに対処するため、ネック部を二枚のダンパーで成形したデュアルダンパーが使用されるようになった。ネック部を二重化することにより、ネック部にかかる荷重が分散されるため、ネック切れが起きにくくなる。

このようなデュアルダンパーは、図5にその製造工程を示すように、フェノール含浸布を成形し(a)、外形抜きして(b)、フェノール系接着剤をネックを補助する補助ダンパー42に塗布または含浸させ、主ダンパー41と同時成形することにより接着し(c)、製作される。ここで、フェノール系の接着剤を用いる理由として、ダンパー形状を出すのに熱硬化性樹脂が適しており、その中でも

フェノール系の樹脂は、単価が安いためである。

### 【0005】

#### 【発明が解決しようとする課題】

上記したデュアルダンパーによれば、その製造工程において接着剤を塗布する工程が増えてしまうため量産性に乏しいといった欠点を持っていた。また、纖維状のダンパーに接着剤を使用するため、縫い目から接着剤がはみ出し、その結果、金型成形を行う際に金型が汚れてしまうといった欠点も持っていた。更に、纖維同士を接着する際、纖維と纖維の点接着を改善するために縫い目方向をそろえる必要があり、従って作業性が悪かった。

### 【0006】

また、導電ダンパー等にげのある成形をしているものに関しては、フェノール系の接着剤では付きにくく、接着剤を使用する場合、粘度があるために接着むらが生じてしまいビリ等の異常音を発生しやすくなる。更に、補助ダンパーの接着条件としてダンパーの動きが乱れないよう同心円に貼る必要があり、そのためには補助ダンパーの外形を切ってから貼らなくてはならない。

### 【0007】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、補助ダンパーを主ダンパーに接着する際、厚さ調整の可能なラミネートフィルムやコート剤を用いることにより、縫い目に関係なく接着でき、また、接着むらを改善し、更に、金型汚れが発生しにくく、同時成形による製造工程の減少と、あわせて制振効果を期待できるスピーカ用ダンパーならびにその製造方法を提供することを目的とする。

### 【0008】

#### 【課題を解決するための手段】

上記した課題を解決するために、請求項1に記載の発明は、フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーと、補助ダンパー上にラミネートされたフィルムと、補助ダンパーあるいはラミネートフィルム上に形成した主ダンパーとを備えるとした。

このことにより、ラミネートされたフィルムを溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに接着むらも改善すること

のできるスピーカ用ダンパーを提供できる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくいといった効果ももつ。

#### 【0009】

請求項2に記載の発明は、フェノール系樹脂を含浸し、かつ、コート剤を塗布した補助ダンパーと、コート剤が塗布された補助ダンパー上形成された主ダンパーとを備えることとした。

このことにより、コート剤を溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに接着むらも改善することのできるスピーカ用ダンパーを提供できる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくいといった効果ももつ。

#### 【0010】

請求項3に記載の発明は、フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーにフィルムをラミネートする工程と、補助ダンパー上あるいはフィルム上に主ダンパーを接着する工程とを備えることとした。

このことにより、ラミネートされたフィルムを溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに、接着むらも改善することのできる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくく、補強部のダンパーを同時成形できるため、接着剤を使用した従来例よりも製造工程が減少する。

#### 【0011】

また、請求項4に記載の発明は、請求項3に記載のスピーカ用ダンパーの製造方法において、ラミネート工程の後に補助ダンパーの外周部を所定形状に切断する工程を更に備えることとした。

このことにより、ダンパーの動きが乱れないよう同心円に貼る必要がなくなり、従って補助ダンパーの外形を切ってから貼る必要は無く、作業性が向上する。

#### 【0012】

請求項5に記載の発明は、請求項3に記載のスピーカ用ダンパーの製造方法において、ラミネートされたフィルムの厚さを変えることにより、補助ダンパー上あるいはラミネートされたフィルム上に主ダンパーを接着することとした。

のことにより、金型ににげがあるものでもラミネートフィルムの厚さを変えることによってそのにげの部分でも容易に接着が可能となる。

#### 【0013】

請求項6に記載の発明は、フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーにコート剤を塗布する工程と、補助ダンパー上に主ダンパーを接着する工程とを備えることとした。

のことにより、コート剤を溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに、接着むらも改善することができる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくく、補強部のダンパーを同時成形できるため、接着剤を使用した従来例よりも製造工程が減少する。

#### 【0014】

請求項7に記載の発明は、請求項6に記載のスピーカ用ダンパーの製造方法において、コート剤の厚さを変えることにより、補助ダンパーに主ダンパーを接着することとした。

のことにより、コート剤の厚さを変えることによって金型ににげがあるものでも容易に接着が可能となる。

#### 【0015】

##### 【発明の実施の形態】

図1は本発明におけるスピーカ用ダンパーの製造工程の一実施形態を示す図である。ここではラミネートフィルムによるデュアルダンパーの製造工程が示されている。まず、工程(a)において、補助ダンパー12としてのフェノール含浸布を成形する。そして、樹脂フィルム121をラミネートし、これらを吸引することによってラミネートフィルムとの密着性を向上させる。

#### 【0016】

次に、工程(b)において、ラミネートフィルム121と補助ダンパー12の外径抜きを行う。最後に、工程(c)において、接着温度265±5℃で主ダンパー11の成形と補助ダンパー12の接着を同時に行う。

なお、布原反り含浸するフェノールの希釀割合は5~83%である。また、ラミネートされる樹脂フィルム121は、厚さ80~150μmのものを使用する

ものとする。

#### 【0017】

図2は、本発明におけるスピーカ用ダンパー製造工程の他の実施形態を示す図である。

ここでは、まず、工程(a)において、補助ダンパー12とラミネートフィルム121の外径および内径を抜く。内径を抜く理由としては、ダンパーの中心を導くためである。次に、工程(b)において、導電材料で構成される主ダンパー11と重ね合わせ、加熱プレスによって同時貼りして成形を行う。更に、工程(c)において、二枚貼りダンパーの外形および内径を抜き、ネック部二枚貼りダンパーが完成する。

#### 【0018】

図3は、本発明におけるスピーカ用ダンパー製造工程の更に他の実施形態を示す図であり、コート剤によるデュアルダンパーの製造工程が示されている。

まここで、まず、製造工程(a)において、補助ダンパー12にフェノールが含浸され、コート剤が塗布された布122が仮成形される。コート剤の種類によっても異なるが、ここでは、成形温度を100~140℃とする。

#### 【0019】

次に、工程(b)において、外径抜きが行われ、工程(c)で、主ダンパー11成形と補助ダンパー12の接着が行われる。接着温度は、図1に示す実施形態と同様265±5℃とする。

コート剤122の材料としては、ゴム系やアクリル系、ウレタン系と振動を増幅させる大きさによって変えていくものとする。また、コート剤122の厚さは、ここでは、80~150μmのものを使用するものとする。

#### 【0020】

以上説明のように本発明によれば、補助ダンパー12を主ダンパー11に接着する際、厚さ調整の可能なラミネートフィルム121やコート剤122を用いることにより、原反の縫い目に関係なく接着でき、また、接着むらを改善し、更に、金型汚れが発生しにくく、同時成形による製造工程の減少と、あわせて制振効果を期待できるスピーカ用ダンパーならびにその製造方法を提供することができ

る。

なお、金型に、にげがあるものでもラミネートフィルム121の厚さを変えることによってそのにげの部分でも容易に接着が可能となり、また、コート剤122を用いた場合も、ラミネートフィルム121同様、コート剤122の厚さを変えることによって金型のにげがあるものでも容易に接着が可能となる。

#### 【0021】

##### 【発明の効果】

請求項1に記載の発明によれば、フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーと、補助ダンパー上にラミネートされたフィルムと、補助ダンパーあるいはラミネートフィルム上に形成した主ダンパーとを備えることにより、ラミネートされたフィルムを溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに接着むらも改善することのできるスピーカ用ダンパーを提供できる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくいといった効果ももつ。

#### 【0022】

請求項2に記載の発明によれば、フェノール系樹脂を含浸し、かつ、コート剤を塗布したダンパーと、コート剤が塗布された補助ダンパー上に形成された主ダンパーとを備えることにより、コート剤を溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに接着むらも改善することのできるスピーカ用ダンパーを提供できる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくいといった効果もあわせ持つ。

#### 【0023】

請求項3に記載の発明によれば、フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーにフィルムをラミネートする工程と、補助ダンパー上あるいはフィルム上に主ダンパーを接着する工程とを備えることにより、ラミネートされたフィルムを溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに、接着むらも改善することのできる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくく、補強部のダンパーを同時成形できるため、接着剤を使用した従来例よりも製造工程が減少する。

【0024】

請求項4に記載の発明によれば、ラミネート工程の後に補助ダンパーの外周部を所定形状に切断する工程を更に備えることにより、ダンパーの動きが乱れないよう同心円に貼る必要がなくなり、従って補助ダンパーの外形を切ってから貼る必要は無く、作業性が向上する。

【0025】

請求項5に記載の発明によれば、ラミネートされたフィルムの厚さを変えることにより、補助ダンパー上あるいはラミネートされたフィルム上に主ダンパーを接着することにより、金型ににげがあるものでもラミネートフィルムの厚さを変えることによってそのにげの部分でも容易に接着が可能となる。

【0026】

請求項6に記載の発明によれば、フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパーにコート剤を塗布する工程と、補助ダンパー上に主ダンパーを接着する工程とを備えることにより、コート剤を溶融させ接着させるために布の縫い目に関係なく接着でき、作業性が向上するとともに、接着むらも改善することのできる。また、接着剤を使用する従来例に比べ、金型汚れが発生しにくく、補強部のダンパーを同時成形できるため、接着剤を使用した従来例よりも製造工程が減少する。

【0027】

請求項7に記載の発明によれば、コート剤の厚さを変えることにより、補助ダンパーに主ダンパーを接着することにより、コート剤の厚さを変えることによって金型のにげがあるものでも容易に接着が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明におけるスピーカ用ダンパーの製造工程の一実施形態を示す図である。

【図2】

本発明におけるスピーカ用ダンパーの製造工程の他の実施形態を示す図である

【図3】

本発明におけるスピーカ用ダンパーの製造工程の更に他の実施形態を示す図で

ある。

【図4】

一般的なスピーカの構成ならびにダンパー構造を示す図である。

【図5】

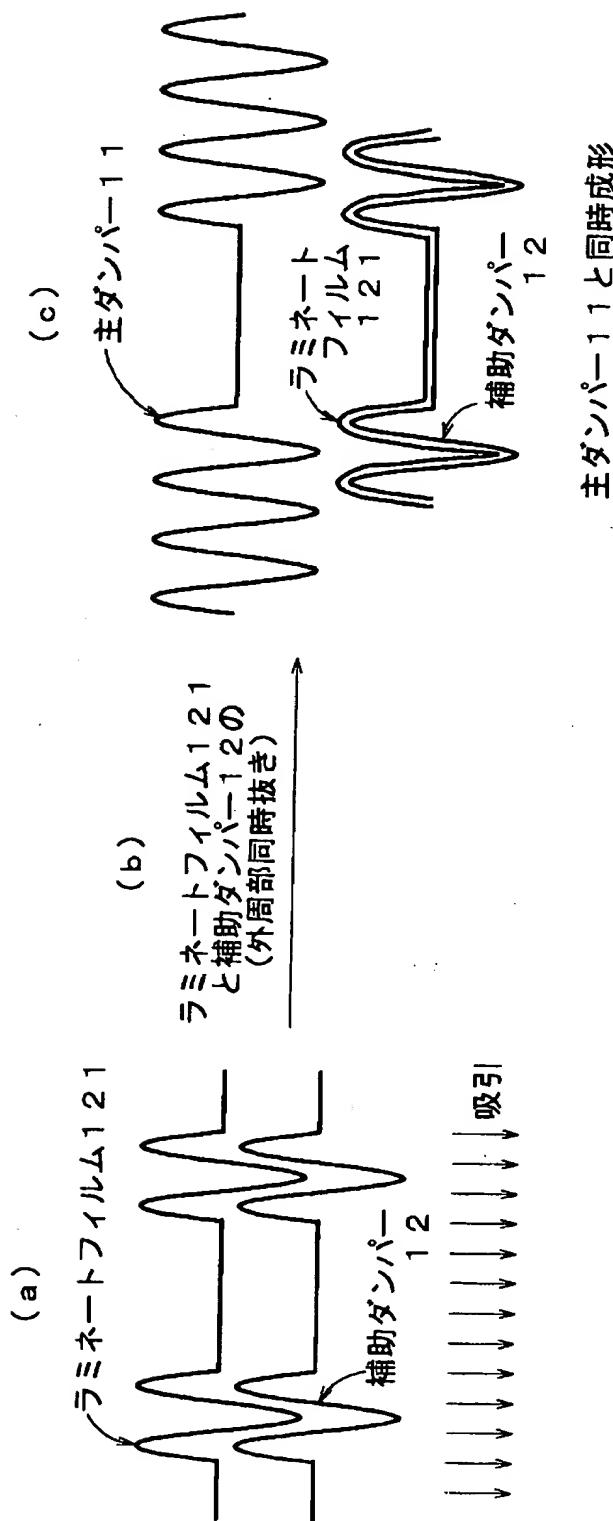
従来におけるスピーカ用ダンパーの製造工程を示す図である。

【符号の説明】

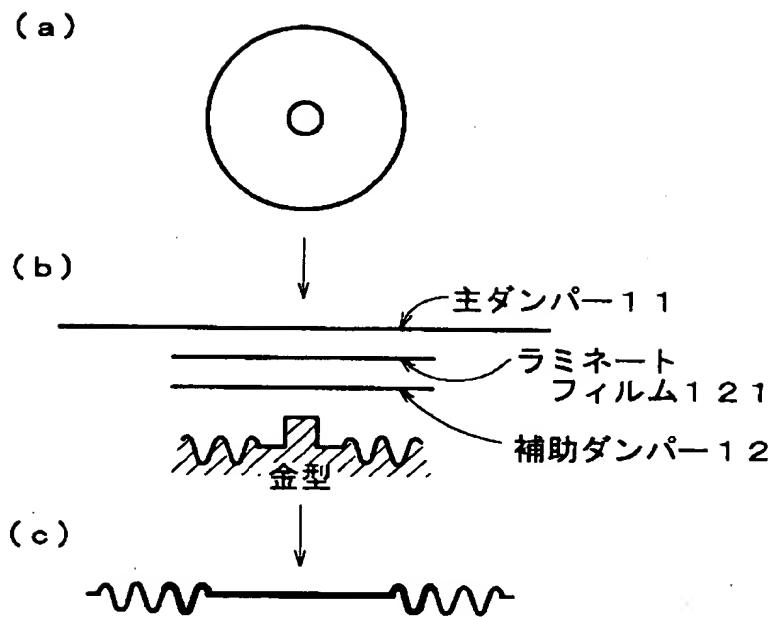
- 1 1 主ダンパー
- 1 2 補助ダンパー
- 1 2 1 ラミネートフィルム
- 1 2 2 コーティングされた布

【書類名】 図面

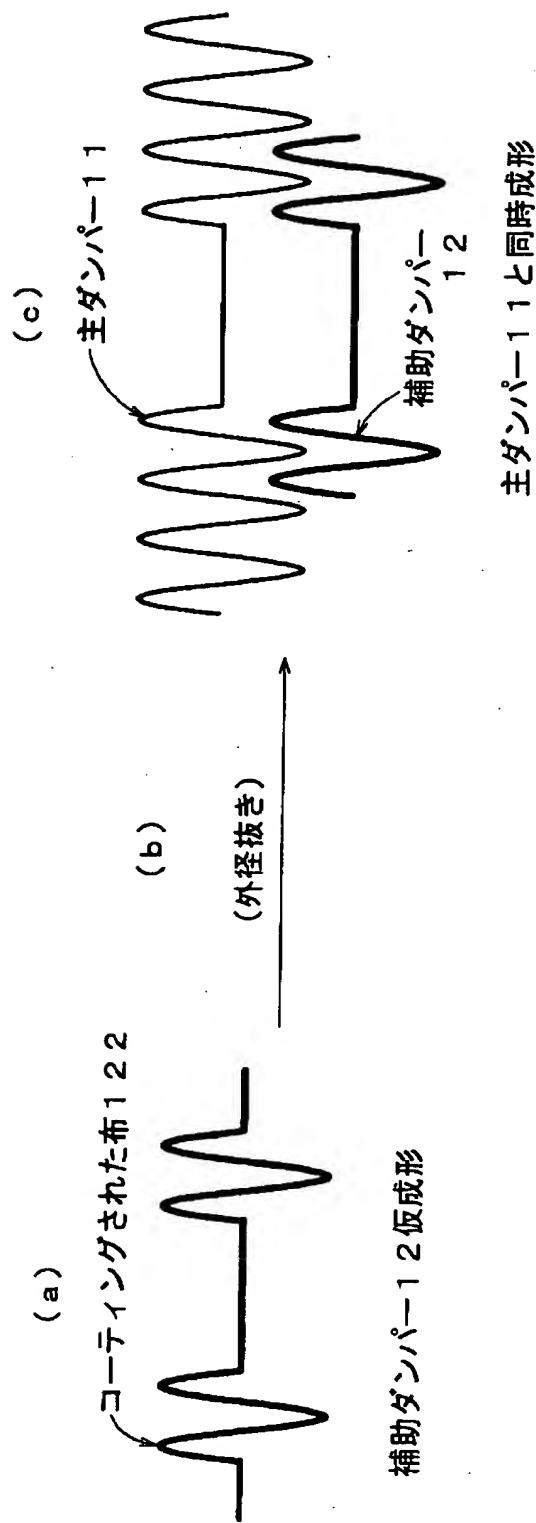
【図1】

主ダンパー  $11$  と同時成形

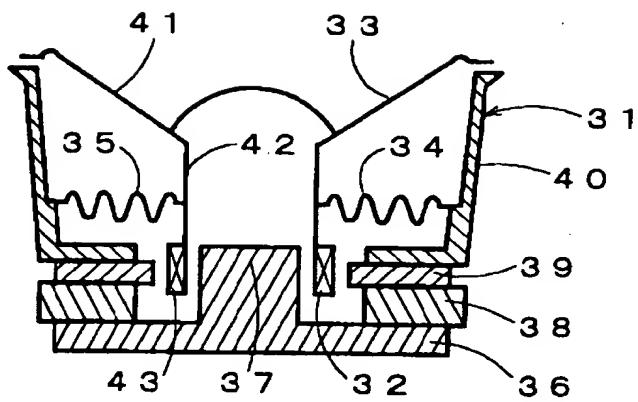
【図2】



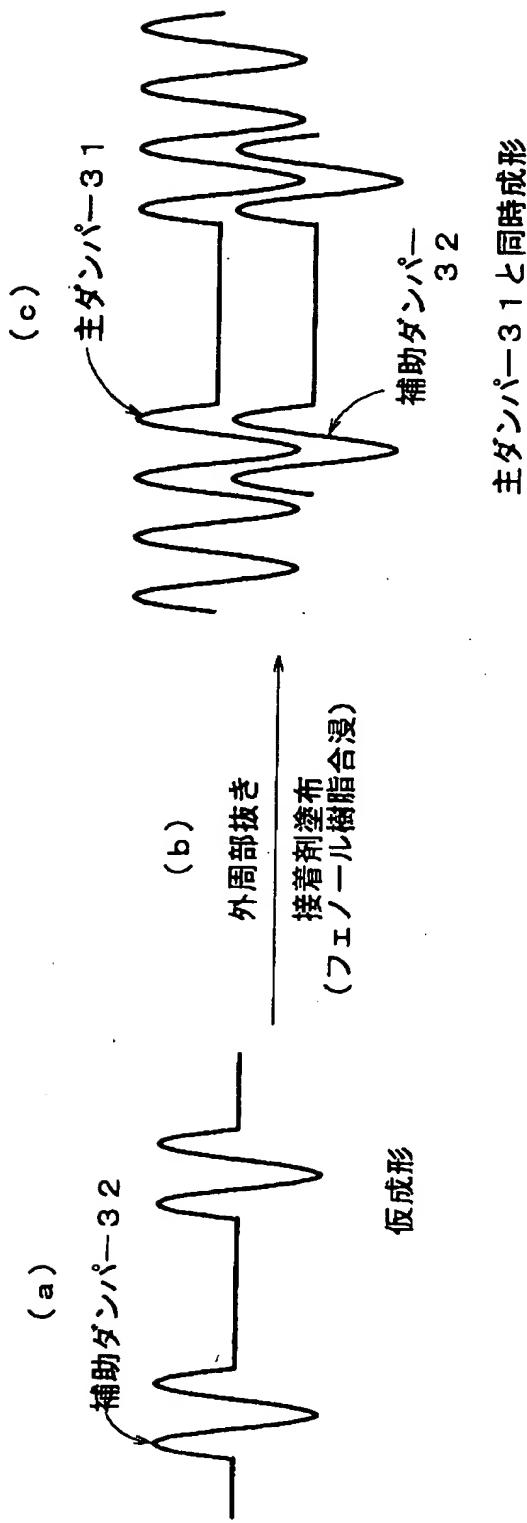
【図3】



【図4】



【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 補助ダンパーを主ダンパーに接着する際、厚さ調整の可能なラミネートフィルムやコート剤を用い、縫い目に関係なく接着する。

【解決手段】 本発明のスピーカ用ダンパーは、フェノール系樹脂を含浸した補助ダンパー12と、補助ダンパー12上にラミネートされたフィルム121と、補助ダンパー12あるいはラミネートフィルム121上に形成した主ダンパー11とを備える。また、フェノール系樹脂を含浸し、かつ、コート剤122を塗布した補助ダンパー12と、補助ダンパー12上あるいはコート剤122上に形成した主ダンパー11とを備えてもよい。厚さ調整の可能なラミネートフィルム121やコート剤122を用いることにより、原反の縫い目に関係なく接着でき、また、接着むらを改善し、更に、金型汚れが発生しにくく、同時成形による製造工程の減少と、あわせて制振効果を期待できる。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000005016]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

氏 名 バイオニア株式会社

出願人履歴情報

識別番号 [000221926]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住 所 山形県天童市大字久野本字日光1105番地

氏 名 東北パイオニア株式会社